

## World News

### ロケット関連ニュース

#### 1. ボーイング・ロンチ・サービス社は インテルサットとシーロンチでの 打上げ契約を結んだ事を発表

ボーイング・ロンチ・サービス社 (BLS) は 2003 年のインテルサット衛星のシーロンチでの打上げに関し、インテルサット LLC と打上げ契約を締結したと 2002 年 1 月 15 日に発表した。



Zenit-3SL ロケット Sea Launch 社提供

「これは BLS の新組織を設立して初めての契約であり、重要な出来事であります。インテルサットのような衛星業界のリーダーと署名することは、私達の顧客にフォーカスした拡販が有効であった事を証明し、世界衛星市場で BLS のポジションをさらに高めることになりました。」と Will Trafton BLS 社長は喜びを表明した。

BLS 社は、シーロンチ Zenit-3SL ロケットで、最高重量 5700kg (12540lb.) までのインテルサット X 衛星を静止軌道転送に投入する契約に 2001 年 12 月 12 日に調印した。衛星は Astrium 社製で、各種の通信サービスを提供するために、C バンドと Ku-バンドトランスポンダを搭載、大西洋上の静止軌道に投入される。この衛星の発生電力は 8kW あり、Astrium のユーロスターシリーズの最新バージョンの E3000 を使い、沢山のトランスポンダを搭載している。



インテルサット X 衛星 Intelsat 社提供

インテルサットは現在、21 機の衛星を用いて、世界の 200 以上の国の主要通信サービスプロバイダーのインターネットバックボーンサービス、放送、通信、電話技術、および法人のネットワークサービスを提供する。インテルサットは、より優れた品質と信頼性によってグローバルな衛星通信サービスの広い範囲を提供している。

BLS 社 2002 年 1 月 15 日プレスリリース記事

## 2. アリアンフライト 147、INSAT 3C 打上げ成功

アリアンスペース社は1月23日にフライト 147でINSAT-3C衛星の打上げに成功した。アリアンスペース社として 2002 年最初の打上げとなる。



Flight 147 Lift off Arianespace 提供

インド宇宙機構(ISRO)のINSAT-3C衛星は、正確な地球静止トランスファー軌道に投入された。フライト 147 (Ariane 4) は、フランス領ギアナのアリアン打上げセンターのELA-2射点から現地時間の午後8時47分に打上げられ、22分後、2750kgのペイロードを切り離し、トランスファー軌道に投入する事に成功しました。この打上げは今年初めての商業用打上げとなった。フライト 147 は、また、アリアンとISROとの長期打上げパートナーシップの画期的な日として、アリアン1でインドの最初の衛星

「Apple」を打上げた日の1981年6月のマークが印されている。

ISRO は INSAT-3C の他に、今年末にINSAT-3A、2003年にはINSAT-3Eをアリアンロケットで打上げる予定である。

INSAT-3C は通信サービスをインド亜大陸に提供する予定で、30本のCバンドトランスポンダ、2本のSバンドトランスポンダ、および1本の移動体通信用トランスポンダを搭載している。アリアンスペース社は今年からAriane 5の打上げも再開する為、忙しい年となるとコメントしている。

アリアンスペース社の次の打上げは2月20日にインテルサット 904衛星をAriane 4で打上げられる事が計画されている。

それに続いて、ESAのEnvisat環境監視衛星がAriane 5フライトで2月28日に打上げ予定されている。今日のフライト 147 はAriane 4の108番目の打上げとなる。また、Ariane 42Lでの構成の13番目である。これはAriane4の在庫のロケットとなった。

- 2001年1月23日Arianespace プレスリリース記事 -

## 衛星関連ニュース

### 1. LORAL と合衆国政府は1996年からの中国長征ロケット問題で和解

- 米国司法省は今後の公判終了を決定 -  
ロラル・スペース・アンド・コミュニケーションズ (NYSE: LOR) は、1996年に中国の長征ロケットの打上げ失敗の事故調査において、LORの関与に関し、米国政府と司法取引での和解に達したと報道した。Loral は、また、司法省がこの問題で、更なる調査を止め、この問題を取り下げる事に同意したと発表した。

和解内容は、Loral が、政府の起訴の是非

無く、国務省に 1400 万ドルの民事罰金を支払うことに合意しました。罰金は、利息無しで 7 年間で支払われ、毎年約 200 万ドル現金で支払われることになる。

罰金（おおよそ 1 株当たり 0.04 ドル）のコストは、Loral の 2001 年の第 4 四半期に計上される。

Loral はまた、その輸出管理機能も強化した。会社のその為に掛かるコストは、合計で 600 万ドル、すでに 200 万ドルを投入している。

Loral の Bernard L .Schwartz 会長兼最高経営責任者は、「Loral およびその従業員は、愛国的で、法律を守っている国民であり、私達はこの問題を真摯に厳粛に受取っています。私達は従来から、優秀なセキュリティの実績を持っており、輸出管理令を厳格に遵守しております。 会社は、広範囲に亘る新輸出管理教育計画と、多方面からの専門スタッフ、および非常に改善された監視を行なうシステムを構築しました。また、「この問題は、1996 の中国のロケット故障の原因を保険機関に知らせるために設立した独立事故調査委員会（IRC）の活動範囲外で発生したものです。IRC は保険業者の依頼で組織され、Loral 及び五つの衛星、およびロケット会社からの代表者により構成されていました。IRC の一次事故報告書のコピーがロラルの従業員によって中国に送信された事が判ったときに、直ぐに国務省に自ら開示しました。それにもかかわらず、Loral はその事故に対し全責任を認め、適切な国務省の承認を得るために、その事故に対し遺憾の意を表明しました。」とのコメントを述べています。

- LOR 社 2002 年 1 月 9 日プレスリリース記事

## 2 . ロッキードマーチン及び TRW チームは 26 億 9800 万ドル（3642 億円）の次世代軍用通信衛星の研究開発契約を米国空軍と締結

合衆国空軍はロッキードマーティン及び TRW チームと次世代軍用通信衛星プログラムのシステム開発とデモンストレーション（SDD）フェーズを開始する事を決定、26 億 9800 万ドル（日本円にして 3642 億円）の契約を締結した。



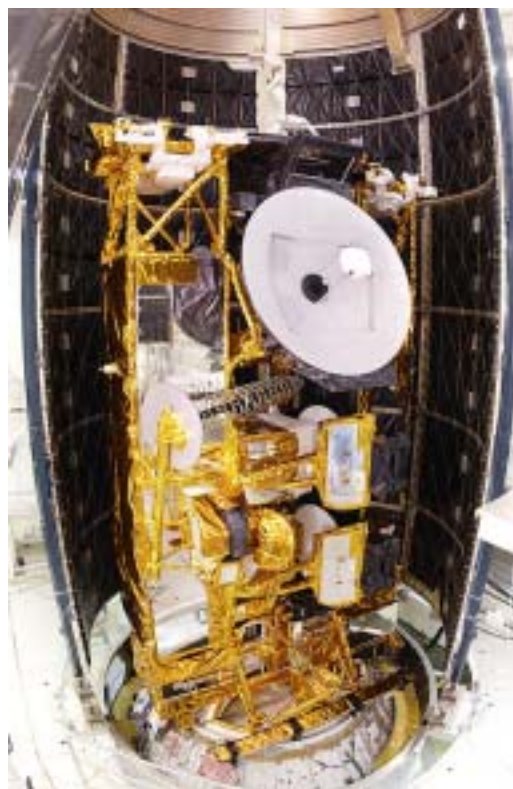
Lockheed Martin 提供

高度 EHF プログラムは、国防省の戦略爆撃機のための世界的な通信網で、非常に安全で、妨害に強い次世代通信システムである。SDD フェーズは、2 つの高度 EHF 衛星と高度 EHF ミッションコントロール部分を配備する事になっている。

ロッキードマーチンが主契約者となり、衛星バスとミッションコントロールセグメントを担当する。 TRW はペイロード纏め、そのシステム設計及びペイロードプロセッサを開発すると共に、各種アンテナ装置を開発する。 次世代高速データ転送は、リアルタイムのビデオ、戦場マップ、ターゲットとしているデータなどの戦術的な軍隊通信伝送を可能とする。 ミッションコントロールセグメントは、スケジューリング

された MilStar と高度 EHF 衛星コントロール及び通信リソースを統合する。これを実現するために、高度 EHF は、次世代高度データ転送モードを MilStar 衛星の低速データ転送速度および中速データ転送速度モードに付加する。次世代高速データ転送速度モードは、高度 EHF ターミナルに (Mbps) あたりデータ転送速度で最高 820 万ビットのデータを提供する。そのレートは現在使用されているパーソナル・コンピュータのモデムより 150 倍速い。個々の高度 EHF 衛星は、多元同時ダウンリンク経由で 50 以上の通信チャンネルを使用し、グローバル通信確保のために inter-satellite crosslinks を使用する。高度 EHF 衛星の 1 号機は 2006 年に打上げる計画である。高度 EHF システムは、米国国防総省の MilStar の後継システムである。MilStar プログラムは 3 衛星で世界をカバーしている。MilStar II 衛星は、最近、ケープカナベラルに輸送され、タイタン IV/ケンタウロスで 2002 年 1 月に、最後の MilStar 人工衛星は 2002 年末にそれぞれ打上げを予定されている。

LM 社 2001 年 11 月 19 日プレスリリース記事



MilStar FV 5 Photo LM 社提供